

平成26年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年9月5日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東

コード番号

9636

URL http://www.kin-ei.co.jp

者 (役職名) 取締役社長 代 表

(氏名) 丸山 隆司 (氏名) 好井 裕一

(TEL) (06) 6632-4553

四半期報告書提出予定日

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

平成25年9月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無 四半期決算説明会開催の有無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年1月期第2四半期の業績(平成25年2月1日~平成25年7月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上商		営業利	益	経常利	益	四半期純	利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年1月期第2四半期	1, 573	4. 2	50	_	43	_	23	_
25年1月期第2四半期	1, 509	△13.9	△5	_	△10	_	△22	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
26年1月期第2四半期	8	52	_	
25年1月期第2四半期	Δ8	13	_	

※平成25年6月1日付で株式10株を1株の割合で併合しており、1株当たり四半期純利益は当該株式併合が前事業年度の 期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年1月期第2四半期	5, 150	1, 618	31. 4
25年1月期	5, 227	1, 623	31. 1

(参考) 自己資本 26年1月期第2四半期 1,618百万円 25年 1 月期 1,623百万円

2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円 銭	円銭	円銭	円銭	円銭		
25年 1 月期	_	0 00	_	1 00	1 00		
26年1月期	_	0 00					
26年1月期(予想)			_	10 00	10 00		

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※平成25年6月1日付で株式10株を1株の割合で併合しているため、平成26年1月期の配当予想につきましては、当該 株式併合の影響を考慮しております。

3. 平成26年1月期の業績予想(平成25年2月1日~平成26年1月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利	益	経常利	益	当期純利	山益	1株当た 当期純利3	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	3, 100	△0.4	110	_	90	-	50	_	17	92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 264

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年1月期2Q	2,821,000株	25年 1 月期	2, 821, 000株
26年1月期2Q	30, 828株	25年1月期	30, 165株
26年1月期2Q	2, 790, 575株	25年1月期2Q	2, 791, 548株

※平成25年6月1日付で株式10株を1株の割合で併合しており、上記株式数は当該株式併合が前事業年度の期首に 行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算 短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していませ ん。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「(4)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.	<u>1</u>	á四半期決算に関する定性的情報2
	(1)	経営成績に関する定性的情報2
	(2)	財政状態に関する定性的情報3
	(3)	キャッシュ・フローの状況3
	(4)	業績予想に関する定性的情報3
2.	ť	ナマリー情報(その他)に関する事項 ······· 4
	(1)	四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用4
	(2)	会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示4
3.	<u>pτ</u>	9半期財務諸表 ·······5
	(1)	四半期貸借対照表
	(2)	四半期損益計算書7
		第2四半期累計期間 ······7
	(3)	四半期キャッシュ・フロー計算書8
	(4)	継続企業の前提に関する注記9
	(5)	セグメント情報等9
	(6)	株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記9
	(7)	重要な後発事象9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による積極的な財政政策や金融緩和の実施を 背景に円安・株高が進行し、雇用・所得環境の本格的な改善には至らないものの、一部に景気回復に向け た持ち直しの動きが見られるなど、先行きへの期待感が広がる中で推移しました。

この間当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるととも に、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、集客と収入の確保に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、劇場事業では"モンスターズ・ユニバーシティ" "名探偵コナン" "テッド" "ドラえもん" "風立ちぬ" "真夏の方程式" "プラチナデータ" "シュガー・ラッシュ" "ドラゴンボール Z" "ダイ・ハード/ラスト・デイ"などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、阿倍野地区で唯一の映画館であることを広く訴求するため、平成25年7月1日より劇場名を「アポロシネマ8」から「あべのアポロシネマ」に変更したほか、デジタルサイネージ、メールマガジン、ブログ、ツイッターなど各種メディアを利用した情報発信を活発に行うとともに、「あべのハルカス」や「あべのキューズモール」との共同販売促進活動を展開し、増加する阿倍野地区来街者への積極的な働きかけを行いました。さらには、昨年より設置を始めた自動券売機をチケットカウンター横に移動のうえ計4台に増設するなど、顧客利便の向上と省人化による経費節減にも意を用いましたので、劇場事業では前年同期を上回る成績となりました。一方、遊戯場事業におきましては劇場事業との連携による集客を重点的に推進しました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して4.3%増の654,005千円となり、営業原価控除後では23,759千円のセグメント損失(前年同期は38,631千円のセグメント損失)となりました。

不動産事業部門におきましては、安全で快適なビル環境の整備を継続的に推進するとともに、「アポロシネマメンバーズ」の会員が当面の目標であった10万人を突破したことを記念して、アポロビル、ルシアスビルにおける販売促進活動を行うなど、劇場事業との連動を重視した誘客に努めたほか、ルシアスビル1階のルシアスステージを開放し、地域連携によるパフォーマンス公演「あべのAステージ」を定期的に開催するなど賑わいの創出にも注力いたしました。またビル空室率の低減を図るべく、テナント誘致活動を精力的に推進する中で、とりわけルシアスビル事務所フロアの空室率が大幅に改善したことなどから、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、前年同期に比較して4.2%増の919,602千円となり、営業原価控除後では前年同期と比較して17.5%増の228,873千円のセグメント利益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高合計は前年同期に比較して4.2%増の1,573,608千円となり、費用の面におきましても、全社において業績管理を徹底し、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めました結果、営業利益は50,464千円(前年同期は5,742千円の営業損失)となり、経常利益は43,900千円(前年同期は10,590千円の経常損失)、四半期純利益は23,787千円(前年同期は22,706千円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して76,467千円減少し、5,150,737千円となりました。負債は借入金の返済等により、前期末に比較して71,673千円減少し、3,532,053千円となりました。また、純資産は、配当金の支払い等により利益剰余金が減少したため、前期末に比較して4,793千円減少し1,618,683千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動による収入が、投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して6,594千円(9.7%)増加し、74,658千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、326,471千円で前年同期と比較して91,447千円増加しました。これは、減価償却費の減少や法人税等の支払額の増加に比べ、税引前四半期純利益の増加が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、有形固定資産の取得や短期貸付金の増加により115,252千円の支出となりました。前年同期と比較しますと、有形固定資産の取得による支出額が減少したこと等により15,365千円支出額が減少しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、借入金の返済等により204,623千円となりました。前年同期と比較しますと、借入金の返済額の増加等により99,701千円支出額が増加しております。

(4)業績予想に関する定性的情報

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、あべのアポロシネマの一部スクリーンにおいて座席交換工事を実施するなど、劇場内における快適性の向上に努めるとともに、様々な方法により映画情報を適時適切に提供することで、「アポロシネマメンバーズ」を中心としたアポロシネマファンの拡大を図ってまいります。また、あべのアポロシネマの開業15周年を記念したイベントを実施するなど、より一層の集客に努めてまいります。不動産事業部門におきましては、ビルの空室部分へのテナント誘致に全力を挙げて取り組むことでビル賃貸収入の確保に努めるほか、劇場部門との連携による販売促進活動を継続して実施するなど、安定的な経営基盤の確立に全力を傾けてまいる所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,100百万円(前期比0.4%減)、営業利益は110百万円(前年同期は9百万円)、経常利益は90百万円(前年同期は3百万円)、当期純利益は50百万円(前年同期は25百万円の当期純損失)となる見込みであります。なお、平成25年3月13日に「平成25年1月期決算短信(非連結)」にて公表した業績予想から、売上高は100百万円、営業利益、経常利益及び当期純利益は10百万円をそれぞれ増額しております。

- 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項
- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 該当事項はありません。
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表 (1) 四半期貸借対照表

(1) () (_	-	
(単位	٠	千	ш	
(11/		- 1		

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	68, 063	74, 658
売掛金	94, 935	91, 750
商品	3, 304	4, 037
その他	258, 585	349, 378
貸倒引当金	△380	△270
流動資産合計	424, 508	519, 555
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	2, 542, 384	2, 406, 914
機械及び装置(純額)	78, 132	72, 500
工具、器具及び備品(純額)	69, 241	72, 613
土地	1, 123, 748	1, 123, 748
有形固定資産合計	3, 813, 506	3, 675, 776
無形固定資産	68, 537	61, 204
投資その他の資産		
差入保証金	884, 340	858, 955
その他	36, 311	35, 245
投資その他の資産合計	920, 651	894, 201
固定資産合計	4, 802, 695	4, 631, 182
資産合計	5, 227, 204	5, 150, 737
負債の部		
流動負債		
買掛金	83, 654	104, 171
1年内返済予定の長期借入金	350, 920	450, 920
未払法人税等	6,773	36, 593
賞与引当金	9, 500	10,000
その他	365, 080	414, 548
流動負債合計	815, 927	1, 016, 233
固定負債		
長期借入金	692, 420	416, 960
退職給付引当金	65, 130	67, 510
受入保証金	1, 619, 239	1, 632, 688
資産除去債務	272, 211	274, 270
その他	138, 798	124, 390
固定負債合計	2, 787, 799	2, 515, 820
負債合計	3, 603, 726	3, 532, 053

(株)さんえい(9636)平成26年1月期第2四半期決算短信(非連結)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564, 200	564, 200
資本剰余金	24, 155	24, 155
利益剰余金	1, 138, 027	1, 133, 905
自己株式	△104, 212	△105, 853
株主資本合計	1, 622, 170	1, 616, 408
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1, 307	2, 275
評価・換算差額等合計	1, 307	2, 275
純資産合計	1, 623, 477	1, 618, 683
負債純資産合計	5, 227, 204	5, 150, 737

(2)四半期損益計算書 第2四半期累計期間

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日)
売上高	1, 509, 689	1, 573, 608
営業原価	1, 353, 526	1, 368, 493
営業総利益	156, 162	205, 114
一般管理費	161, 905	154, 650
営業利益又は営業損失 (△)	△5, 742	50, 464
営業外収益		
受取利息	795	771
受取配当金	69	91
違約金収入	2, 666	900
維収入	2, 445	991
営業外収益合計	5, 975	2, 753
営業外費用		
支払利息	10, 814	8, 573
雑支出	9	743
営業外費用合計	10, 823	9, 317
経常利益又は経常損失(△)	△10, 590	43, 900
特別損失		
固定資産除却損	24, 676	2, 364
特別損失合計	24, 676	2, 364
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△35, 266	41, 536
法人税、住民税及び事業税	2, 100	34, 900
法人税等調整額	△14, 660	△17, 150
法人税等合計	△12, 560	17, 749
四半期純利益又は四半期純損失(△)	$\triangle 22,706$	23, 787

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	$\triangle 35,266$	41, 536
減価償却費	186, 035	175, 147
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2, 098	2, 379
受取利息及び受取配当金	△864	△862
支払利息	10, 814	8, 573
固定資産除却損	24, 676	2, 364
売上債権の増減額 (△は増加)	11, 359	3, 184
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	19, 877	23, 808
仕入債務の増減額(△は減少)	22, 859	20, 516
その他の流動負債の増減額(△は減少)	1, 835	57, 366
その他	△3, 128	3, 936
小計	240, 297	337, 952
利息及び配当金の受取額	799	940
利息の支払額	△11, 319	△7, 610
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	5, 246	△4,812
営業活動によるキャッシュ・フロー	235, 024	326, 471
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△124 , 461	△36, 084
無形固定資産の取得による支出	△4, 044	$\triangle 475$
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△138, 609	△116, 237
差入保証金の回収による収入	210, 000	25, 384
受入保証金の増減額 (△は減少)	△50, 621	13, 449
その他	△22, 881	△1, 290
投資活動によるキャッシュ・フロー	△130, 618	△115, 252
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	_	100, 000
長期借入金の返済による支出	△75, 460	$\triangle 275,460$
配当金の支払額	$\triangle 27,918$	△27, 908
その他	$\triangle 1,544$	$\triangle 1,255$
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104, 922	△204, 623
現金及び現金同等物に係る換算差額	_	_
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u></u>	6, 594
現金及び現金同等物の期首残高	78, 921	68, 063
現金及び現金同等物の四半期末残高	78, 405	74, 658
	10, 400	14,000

(4)継続企業の前提に関する注記 該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

- I 前第2四半期累計期間(平成24年2月1日から平成24年7月31日)
 - 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書
	シネマ・アミュ ーズメント事業	不動産事業	計	(注) 1	計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	627, 260	882, 428	1, 509, 689	_	1, 509, 689
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_	_	_	_	_
計	627, 260	882, 428	1, 509, 689	_	1, 509, 689
セグメント利益又は損失(△)	△38, 631	194, 794	156, 162	△161, 905	△5, 742

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。
 - 2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - Ⅱ 当第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)
 - 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書
	シネマ・アミュ ーズメント事業	不動産事業	計	(注)1	計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	654, 005	919, 602	1, 573, 608	_	1, 573, 608
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_	_	_	-	_
計	654, 005	919, 602	1, 573, 608	_	1, 573, 608
セグメント利益又は損失(△)	△23, 759	228, 873	205, 114	△154, 650	50, 464

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。 2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 該当事項はありません。
- (7) 重要な後発事象 該当事項はありません。